

モトづくりの現場

—省エネ技術最前線—

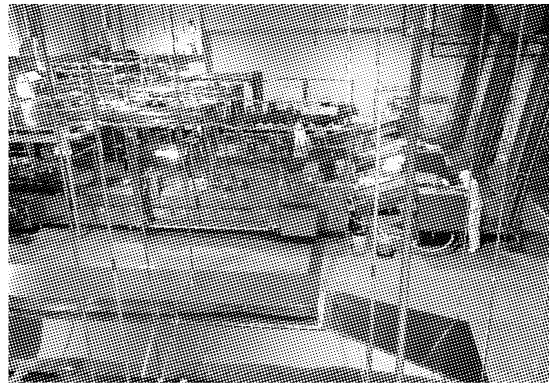
6

高
政

東日本大震災で甚大な被害を受けた水産の町、宮城県女川町。震災から半年後の9月、かまぼこメーカーの高政（女川町、高橋正典社長、0225・53・2

854）は、オール電化の854）は、オール電化のかまぼこ工場として国内最大規模の「万石工場」を完成した。生産性と品質を兼ね備え、環境にも配慮した新工場を通じ町の産業再生をけん引する。

オール電化製造ライン



揚げかまぼこを生産するIHフライヤーのライン
▲.....
スを燃料に使用していた旧工場との違いをどう強調するか
揚げかまぼこは170-180度Cに熱した揚げ油を電化のメリットは魅力的だ
使う。ガスという。

飛躍的に改善。また、じか火ではないため油が劣化しにくい。1カ月分の油の消費量は、生産量が4倍にもかかわらず旧工場と同量で済むという。

事業所概要

▽所在地 宮城県女川町浦宿浜字浦宿81の36
▽主要生産品目 揚げかまぼこ、笹かまぼこ、魚肉すり身原料
▽年間エネルギー消費量 算定中
▽CO₂排出量 算定中

採算確保し作業環境改善

も良い。夏の外気温と比べる工場の方が涼しくて驚いた」。新工場計画を担当した三嶽広之常務は、ガ

式の旧工場は夏場、60度Cに達することもあった。これをIH式に転換する

何より「IHだと揚げがりが非常にきれいになる」（同）と品質面で好影響があった。フライヤー内の温

は試験機でテストを繰り返して、十分な品質が出せることを確認したうえで、導入

町内の大半の企業が津波被害を受けた中、津波を免れた同社には地元経済を支える使命感もある。「今まで以上に、安心安全で高品質の製品を供給し続けた」と三嶽常務は話している。

（仙台・陶山陽久）

度が均一になるため、かまぼこの揚げムラがなくなる。温度管理もボタン操作で簡単となり、不良率も減った。

導入したIHフライヤーは長さが約20センチもある特注品。他社が使用した実績はなく、従来のかまぼこの品質を保てるかは導入前の大きな問題だった。三嶽常務

新工場には自社製品の直売店「万石の里」を併設。見学コースも設け、小学生の見学を積極的に受け入れている。「電気自動車（EV）で遊びに来た人が充電していけるように」とEV用急速充電器も設置。被災地に明るい灯をともしている。